



中部横断自動車道八ヶ岳南麓 新ルート沿線住民の会ニュース

No.15 2014年12月10日 発行

新しい年も皆さんと共に！

2013年1月12日、中部横断自動車道八ヶ岳南麓新ルート沿線住民の会が設立して、間もなく2年。設立当初から「八ヶ岳南麓に高速道路はいらない！」との思いで、中部横断道の問題に一生懸命に取り組んできました。本年7月23日、残念ながら「Bルート案を了承」とされましたが、私達の間髪入れぬ要望書・意見書・抗議文の数々が功を奏し、結果として国土交通省が初めて取り組んだ「計画段階評価の試行」の審議期間は3年半もの長きにわたっています。そして関東地方小委員会での了承後、5か月経つても国交省での決定に至っていません。

去る、11月26日には、関東地方整備局へ「計画段階評価のやり直し」を全国で初めて要請しています。今回のような「審議無き計画段階評価」の手法が、今後の公共工事に関する行政手続き上の悪しき前例とされることは許されません。

皆さんの中には「ただ反対していたって、国交省は着実に高速道路整備を進めるだけではないか?!」とのご意見もいただきますが、沿線住民の会は国土交通省・山梨県・北杜市それぞれの動きを監視し、その内容を精査しながら問題点を指摘し抗議する作業を継続していくことが最も有

効な取り組みであると考えていますし、その活動は確実に国交省と各行政機関の動きを抑制しています。

各人がそれぞれの取り組みを！

もちろん、他の手段を否定しているわけではありませんが、これ以上の活動を行う余裕がないと云うのもまた事実です。アイデアがある方は是非自らも共に行動を起こしていただけるようお願い致します。(活動協力者も随時募集中です!)

今後も国土交通省を始め、各行政機関による推進の動きは長く続きます。八ヶ岳南麓を横断する高速道路の整備計画を知らない方もまだまだ沢山いますし、高速道路建設が始まれば、大規模な森林伐採や工事車両の往来が10年以上続き、私達の静かな生活と環境が大きく破壊される事を、住民の方々が現実に関心する問題として考えていくことは大変重要なことです。

沿線住民の会の活動に賛同し、ご支援して下さる皆さんそれぞれが、日常的に集う近隣の方との会話の中で八ヶ岳を横断する高速道路の問題を話題にしてみる、車に張るステッカーをリニューアルする(※ステッカーの裏にマグネットを貼ると車体を痛めません!）、国土交通省や各行政機関に抗議の電話やハガキを出す、などなど多くの住民が関心を持っている事をそれぞれが少しずつでもアピールし続ける事が、この八ヶ岳南麓の自然と景観を守っていくために誰にでもできることではないでしょうか。

今年の11月から来年3月まで、北杜市中部横断自動車道活用検討委員会のワークショップが継続的に行われていますので、内容を精査し、遅れる事無く問題点を指摘していきます。また、国土交通省はいつ「概略計画決定」に至るのか、その間にどの様な手法で対抗できるのか、専門家の方々のお力も借りながら戦略を練っていきます!

新年度も皆さんと共に、力強い活動を継続していきますので、益々の協力を宜しくお願いいたします。

中部横断自動車道八ヶ岳南麓新ルート沿線住民の会運営委員会
 <連絡先> 佐々木郁子 0551-47-6260
 郵便振替 八ヶ岳新ルート住民の会 00220-7-50803
<https://sites.google.com/site/odandonewroot/oshirase>
 e-mail: nanroku2899@gmail.com

11月 地域住民交流会を開催

主役は各人！意見交流を行いました。

11/8 高根町村山西割

高根農村環境改善センターを会場にして西割地域の住民交流会が開催されました。沿線住民の会から、現状が中部横断道の計画段階評価の初めの段階であるとの説明と今後の見通しについて話がありました。それを受けて意見交換では、参加した住民の皆さんは「今後とも八ヶ岳南麓のこの自然と景観をまもっていこう」という気持ちに変わりはないことを表明していました。(T)

11/24 高根町清里

国土交通省の計画段階評価における現状と会の対応、北杜市中部横断自動車道活用検討委員会の問題点などを話し合いました。「清里IC建設予定地では、現在のすばらしい景観が大きく損なわれる」「141号線の改修拡張工事で高速道路化対応が何故できないのか？」「甲府河川事務所の説明会で須玉ー清里間の長坂経由の時間的問題点を質問したが回答無し」などご意見をいただきました。継続して清里交流会を開催することを確認しました。(Y)

11/24 大泉町

「こんなに多くの方が参加されて感激しています」という司会者の言葉から始まった意見交換は小委員会後の国交省の動き、初めての計画段階評価について、北杜市の行っている活用検討委員会、ワークショップの閉鎖性、そして新ルート上にある各地域交流会の開催報告等、多岐にわたるものでした。(K)

11/15 須玉町津金

Bルートは津金で北に向かう計画です。参加した住民の方は、静かなこの地域に高速道路が通ることへ懸念を持ち、「地域で署名に回ったら、半数以上の方が署名してくれた」という話も紹介されました。そしてこれからも自然と景観を守っていこうと話合いました。(I)

11/16 長坂町

7/23 関東地方小委員会で「八ヶ岳南麓を横断するBルート」が了承された今、私たちには様々な疑問や心配があります。地域の皆さんで話し合いました交流を深めようと開催されました。地域の皆さんからは、「農家にとって農地は命、中央道のときもそうだったがまた分断されるのはたまらない、日陰になり水も風も変わってしまう」「高速が出来たらこの風景がどのようになるかイメージすることが大事、巨大な構造物が延々と続く光景を考えよう」「これまでの話等から、これからも諦めないで続けていこうと思う」等のご意見がありました。私たちも身近にお話をお聞きする良い機会となりました。(U)

11/23 高根町村山北割

交流会には最近引っ越してきた人を含め多くの参加がありました。「国道141号の改良・改修をどう訴えていくのか」「北杜市はワークショップでどのように意見を聞こうとしているのか」「八ヶ岳南麓の自然を守ろうともしっかりアピールしたほうがいい」などの質問・意見をいただきました。(S)

※高根町堤地域の住民交流会は
12月に行う予定です。

11/26 計画段階評価のやり直しを 国交省に要請

沿線住民の会・大泉町下井出地区東組高速道路反対対策委員会は11月26日、国交省関東地方整備局に「中部横断自動車道（長坂—八千穂）の計画段階評価をやり直すよう求める要請書」を、道路住民運動全国連絡会の「計画段階評価の見直しを求める要請書」と共に提出しました。私たちはこれまでも、各時点で中部横断自動車道の計画段階評価についてガイドライン通りに行われていないことを指摘してきましたが、それを総括する形で検証し、改めて国土交通省に要請しました。



11/13 ワークショップの中止を 北杜市へ申し入れ

北杜市活用検討委員会がワークショップを開催する決定をしたことに対し、11月13日北杜市に対してその中止を申し入れました。その内容は

- 1 ワークショップの開催の中止
- 2 北杜市まちづくりビジョンに寄せられたパブリックコメントのうち、8割を超える反対意見を正当に扱い、反映させること
- 3 住民の参加で問題の解決を図ることです。

北杜市の当局者は、中部横断道のBルートは関東地方小委員会です承されたものであり、決定と考えている。それを受けて国交省の決定に間に合うように道路プランの検討をしていると説明するだけで、八ヶ岳南麓地域にとって何が一番いいのかという基本的な視点からの議論は置き去りにされたまま、Bルートを既成事実にしようとしています。北杜市へはこのことを強く抗議し、これからは様々な働きかけをしていきます。

計画段階評価のやり直しとは？

「**計画段階評価の制度**」は2010年11月「公共事業の効率性及びその実施過程の透明性の一層の向上を図るため」中部横断道・長坂～八千穂を含めて全国3か所で試行が行われてきました。

「**国交省自らが作成したガイドライン**」では計画プロセスの透明性、客観性、合理性、公平性が強調され、市民の意見を反映する手続きを定めることになっていますが、八ヶ岳南麓を通る新ルートではこれに反し、また多数の住民の意見も反映されませんでした。そのうえ、複数ルート案の比較検討が必要条件であるにもかかわらず実質一つのルートしか提示されなかったこともあり、そのプロセスに重大な瑕疵（かし）があったことは明白でした。そのためもう一度やり直すよう要請したもので、これは全国でも初めてのことです。

沿線住民の会では、専門家チームと相談しながらこの手続きを進めています。

ワークショップの大きな問題

北杜市の中部横断道活用検討委員会は「関係者ワークショップ」を立ち上げずでに2回の論議がおこなわれている。ワークショップメンバーは公募で約30人となっている。

ただし国交省の進めている中部横断道に反対する人は除外している。高速道路建設には利害が伴うが、これでは利益を得る人のみの意見が採用され、不利益をこうむる人たちは意見も言えないということになる。そしてワークショップが非公開（傍聴不可）というのも理解できない。何名かの市議会議員がメンバーに入っているのも問題を孕む。ちなみにワークショップでの論議する内容は、ルート計画の配慮事項、インター位置、道路構造（盛切土・橋梁・トンネル）などになっている。これでは良い街づくりにつながらない。

寄稿

『自然の韻（うた）が聞こえる庭』

ポール・スミザー（北杜市在住）

親愛なるみなさまへ、

この文章は2000年4月8日～5月7日に東京・明治神宮外苑で開催され89万人が訪れた第1回東京ガーデニングショーに寄せて書いた文章です。このガーデニングショーで私は初めて自分が本当につくりたいものをつくり、幸運なことに最優秀賞である英国王立園芸協会プレミアムアワードをいただきました。

それから9年後、私は当時三鷹市にあった事務所をたたみ、あこがれの八ヶ岳南麓に仕事と生活の拠点を移しましたが、15年近く経た現在、無謀な開発行為が止まらない日本の現状が口惜しくてたまりません。

**暮らしにはスピードよりも
もっと大切なものがあるはずです。**

一番好きな日本の風景

時間ができると私は八ヶ岳のふもとにでかけ、農家の人から借りている休耕田を耕し、さまざまな種類の多年草を育てています。

その畑の一方は雑木林で、いろいろな野草が原生し、春、樹木の葉が茂ってくる前に可憐な花を咲かせてくれます。もう一方には澄んだ水の流れる水路があり、未だコンクリートで両脇を固められていないため、六月の半ばにはたくさんのホテルが柔らかい泥の中から現れて、夜空を幻想的に照らします。向こうの空には八ヶ岳のギザギザの山頂が見え、山を背景に青々とした田んぼがまるでタペストリーのように広がり、古い民家が点在しています。これが私が一番好きな日本の風景です。

しかし、残念なことに、そのような田園風景も、統制のとれていない都市計画やほとんどの場合不必要で思慮に欠ける開発行為によって、日に日に変わってきています。人間と自然とが相互に働

きかける調和のとれた素晴らしい景色と暮しが、利便性の名の下に不自然なまっすぐのライン、その土地のものではない材料、コンクリートや金属でつくられた不毛のランドスケープに取って変わられています。

日本原産の植物と昔ながらの材料で

第1回東京ガーデニングショーで私がデザインしたプレゼンテーションガーデンは、主に日本原産の植物と昔から使われてきた材料を使って、日本の素晴らしい自然と暮らしのある八ヶ岳の風景を、少々理想化して小さなサイズで造るというものでした。

そのガーデンには、古材やかかつて日本のほとんどの地域で利用された材料 - 泥、砂、ワラを混ぜて造った泥壁を使った小さな田舎風の家があり、左側は居室、右側はオープンで床に土間が打たれた作業のできる納戸に分かれています。手前の部分は手で切り出した石材がしきつめられたテラスで、頭上には、民家からでた古材の梁でパーゴラを作って蔓性植物を絡め、心地よい日陰と少しプライベートな雰囲気をつくりだしました。

それは、東京かどこか都会の人が古い民家の残るこの山のふもとの土地を手に入れ、週末を過ごす所としてその場所に残っているものを活かし、必要であればそれに合った新しい材料を足して、小さなサマーハウスをつくったという想定です。かつて馬小屋であった崩れかけた壁は大切に修繕され、もうそれ以上傷むことのないように笠石をつけて周囲に溶け込むようにしました。

石敷のテラスからアケビの蔓のアーチをくぐると、より自然にまかせた場所になり、木製の通路がつけられています。大きな岩や樹木や小川の流れといったものを迂回するかたちで、けっして近道だったり、便利ではないかもしれませんが、

ゆっくりと散策できる小道です。

暮らしにはスピードよりももっと大切なものがあるはず。あなたが自然に共感し、その小さな変化や驚きをありがたく感じる事がなければ、多分、人生を生きていないも同然でしょう。

八ヶ岳は素晴らしい植物の宝庫

人々がゆったりとくつろいだり、楽しんだりするためにそのガーデンをつくったので、シーティングエリア（イスとテーブルのあるテラス）は当然のこと、二本の大きな樹木の間には吊したハンモック、木製の通路の途中につくられた、ちょっと腰掛けて、冷たい流れに足を入れることのできる小さなステージなども大切な庭の要素です。そして場所に合った植物だけの自然な植栽をしました。八ヶ岳は素晴らしい植物の宝庫です。

（中略）

私のつくった「理想のガーデン」は年齢、地域

を問わず喜んでいただきました。これが日本の自然と暮らしのよいところを人々が見直す小さなきっかけになったとしたら大変うれしく思います。

不便けれども価値のあるもの、遅れているようでもなつかしくて心地よいものを、これ以上この国が失わないことを心から願っています。

（2000年現代農業8月増刊

「日本的ガーデニングのすすめ～農のある庭」農文協より）



図書紹介

「道路をどうするか」 五十嵐敬喜

小川明雄 共著

岩波新書 2008年

2008年の通常国会（いわゆるガソリン国会・自公政権・福田内閣）の論戦で多くの道路問題が世間に曝された。まず交通量が予測より大幅に少ない「赤字高速道路」の問題、道路建設に用途を限定した「特定道路財源」の問題、その「道路特定財源」確保のために税を二倍にしている「暫定税率」の問題である。この国会で道路建設が我が国最大の利権と化しているという現実が明らかにされた。

本書はこの巨大化した道路利権がいかにして作られてきたかを明らかにしている。それは、旧建設省時代から、高速道路建設を中心とした道路

局の官僚がいかに時の政治家を利用してその利権を温存し強固な仕組みを作ることに奔走してきたかということにつける。著者も言っているが、道路は他の公共事業と違って私たちの生活に密着している。そのため、私たちは道路建設にかかわり費用がいかにおかしくても、道路といえば歓迎していたのではないか。だから国から地方まで政治が政党が変わらなければならないし、国民も変わらなければならないと。そして今や、残り少ない自然を破壊してまで、住民を立ち退かせてまで必要な道路など存在しない。私たちは道路か生活・環境かの選択を迫られている。

著者の五十嵐氏は弁護士で法政大学名誉教授、民主党政権で内閣参与を務め、小川氏は元朝日新聞論説委員で現在フリーのジャーナリスト、この二人には他に「公共事業をどうするか」「議会 官僚支配を超えて」「都市計画 利権の構図を超えて」など多数。一貫して公共事業に対する官僚支配とその利権について暴いている。(M.K)

中部横断道八ヶ岳南麓新ルート沿線住民の会

定期総会のお知らせ

2012年1月に沿線住民の会が発足してから2年が経過しようとしています。今年の7月23日には関東地方小委員会で「Bルート案」が了承されましたが、国交省は八ヶ岳南麓の多くの住民の反対でいまだに「対応方針（案）」を決定することができない状況が続いています。

まだこれから先も予断を許さない状況が予想されますので、更に一層気を引きしめ、2015年も八ヶ岳南麓の自然と景観を守る取り組みを進めていきたいと思っております。

日 時 2015年1月25日（日）午後2時～
場 所 大泉町いずみ活性化施設ホール
連帯のあいさつ、活動報告等を行います。

専門家チームがBルートを視察！

11月12日、道路、環境、法律に詳しい大学教授、弁護士ら6人からなる専門家チームが中部横断道（長坂～八千穂）のBルートの視察に訪れました。一行は長坂を起点に清里まで回って現状を確認しました。

視察後、沿線住民の会と意見交換会が持たれました。国交省による計画段階評価の進め方に重大な問題があることが確認され、今後も連携しながら国交省に計画段階評価をやり直すよう申し入れることで一致しました。



高根町堤地区にて

年末カンパのお願い

沿線住民の会の活動は、支援していただいている皆様のご厚意に支えられています。

会の発足以来、ニュースは15号、チラシも新聞折り込みを中心に15回発行して、皆さんに情報の提供と運動への参加を呼びかけてきました。

「継続は力なり」という言葉があるように、これらの活動は会の基本であり、これからも続けていかなければなりません。そのためには更なる財政基盤の強化が必要です。

年末にあたり、多くの皆さんが沿線住民の会の活動にご理解をいただき、カンパのご協力をお願い致します。カンパは1口1000円ですので、ご支援いただける口数を同封の振込用紙にてお振込み下さい。

〈振込口座〉

郵便振替口座名 八ヶ岳新ルート住民の会
口座番号 00220-7-50803

編集後記

レインボーラインを走っているとソーラーパネルの多さが目に入る。ソーラーパネルは自然エネルギーで地球にやさしいとのふれ込みだが、余りにもところ構わずで逆効果の感じがする。もっとこの自然と景観に溶け込むような設置の仕方はないのだろうか。自然や景観が壊されていくことに心を痛めているのは私だけではないと思うが……。 (た)